

令和元年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立三江小学校 ） 校長名（ 西 垣 秀 樹 ）

1 学校教育目標

「仲間と共に 一人一人の命が輝く 三江っ子の育成」

2 学校教育推進の視点

- (1) 「キャリア教育の視点」を基にした、「なりたい自分になる」ための授業づくりの推進
- (2) 人権教育を学校教育の中核とした教育活動の推進
- (3) 「子どもに寄り添い、子どもの事実から学び、子どもの個性や能力を伸長する」教育の推進
- (4) 「コウノトリとの共生」をはじめとする「環境教育」「ふるさと教育」「命の教育」の推進

3 総合的な自己評価

小中一貫教育でめざすこどもの姿を共有し、9年間の「学びの連続性と系統性」を推進する中で、学校教育目標の実現のために取り組むことができた。今後も、子どもに寄り添い子どもの事実から学ぶ指導体制のもとに、「キャリア教育の視点」を大切にしながら教育活動を推進していきたい。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領 域	評 価 の 観 点	評 価 項 目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 自ら学び自ら考える力の育成	・ 授業における「5つの徹底・継続」実践事項の共有と実践	B	○言語能力、思考力や判断力等の育成につながる授業づくりを推進する。 ○ペア、グループによる話し合い活動を毎時間有効に取り入れていく。 ○基礎タイムでの復習や反復練習で、基礎学力の定着につなげていく。 ○すきま読書や家庭での読書を推進して、進んで読書する子を増やす。 ○子どもが自ら課題をつくり、取り組む学習活動を意図的に設定する。 ○「特別の教科 道徳」の授業実践と、「指導と評価の一体化」を図ることができた。今後も授業の在り方と評価の仕方について研修していく。
	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	・ 基礎タイム、少人数指導、個別指導の充実、分かる授業づくり	A	
	・ 道徳教育	・ 地域道徳教材の活用、重点目標を意識した授業実践と工夫	B	
	・ 英語遊び、外国語活動	・ 楽しい授業づくりの推進、ALTを活用した授業の推進	B	
	・ 総合的な学習の時間	・ 探究的学習の推進、体験的な活動の充実、地域人材の活用	A	
	・ 特別活動	・ 児童会活動の活性化、話し合い活動、縦割り班活動の充実	A	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	・ 情報発信、オープンスクール、授業参観、地域人材の活用	A	○問題行動の情報共有と一貫した指導に努めることができた。 ○学校通信やHPの更新等による情報発信に努めることができた。 ○指定を受け、非認知能力向上事業に取り組み、演劇ワークショップを通して変容する「こどもの姿」を共有し授業に取り入れることができた。 ○子どもの実態をしっかりと捉え、必要な教育活動を実施する必要がある。 ○「いじめ防止基本方針」に基づく指導を全職員で徹底する。いじめや問題行動を未然に防ぐための手立て、初期対応の取組を一層大切にす。
	・ 勤務時間の適正化	・ 定時退勤日の実施、業務の「見える化」の推進	B	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	・ 中学校体験入学、小中合同授業研修、こ小連携、情報の共有化	A	
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	・ 生活指導委員会、児童理解とアセス活用、いじめ防止基本方針	A	
	・ 職員研修の推進	・ 校内研修の充実、非認知能力の理解と啓発、校外研修への参加	A	
	・ 危機管理体制の整備	・ 安全点検と整備、通学路点検と防犯ボランティアとの連携	B	
課題教育	・ ふるさと教育	・ 地域教育資源（ひと・もの・こと）の活用、家庭との連携	A	○保護者や地域の方からの協力がありがたい。今後も地域人材バンクや学校ボランティアを募り、積極的に学校に関わってもらう機会をつくる。 ○児童の健康・体力づくりに向けて、朝の三江っ子タイムをはじめ、全校運動や「縦割り班活動」の機会と時間を確保し実施できている。 ○内面的にはやさしい児童が多く、そのよさを友だちへの関わりに広げていくために、全校で取り組む「福祉体験活動」を実施していきたい。 ○「コウノトリ」をテーマにした環境教育の取組は今後も必要性を感じる。 ○行事の見直しや精選をしつつ、地域と連携して地域のよさを体験させる取組を今後も学校全体で計画・推進していく。 ○キャリアノートを有効に活用しながら、「なりたい自分になるため」の夢や目標を持つことの大切さについて、今後も指導を継続していく。
	・ コミュニケーション教育	・ 授業研修、モデル校としての授業公開と活動内容の発信	B	
	・ キャリア教育	・ 「なりたい自分になること」の意識化、キャリアノートの活用	B	
	・ 体験活動	・ 自然学校、社会見学、環境体験学習、ふるさと学習	A	
	・ 人権教育	・ 教材活用、学級経営と人権意識の育成、福祉教育の推進	B	
	・ 特別支援教育	・ 教育相談、職員研修による児童理解の推進、個別支援の充実	A	
	・ 環境教育	・ コウノトリとの共生、環境体験事業、飼育栽培活動	A	
	・ 安全教育・防災教育	・ 避難訓練、防犯訓練、交通安全指導と自転車実習、校外児童会	A	
	・ 健康教育、食育、体力づくり、運動遊び	・ 外あそびの推進、健康教育授業、給食指導、保健だよりの発行	A	
・ 読書活動	・ チャレンジ50と家庭読書の推進、図書ボランティアの活用	B		

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

評価方法は適切であり、教職員の評価についても適切な評価がなされていると判断している。また、保護者の意見に対してしっかりと受けとめ、教育活動の改善に向けて取り組んでいこうとする学校の姿勢は今年も評価できると考える。

6 総合的な外部評価

アンケートの結果から、学校の取組に対して概ね良好な結果であることがよくわかり、評価結果の根拠や理由も適切に自己評価し改善に向けた取組の様子がうかがえる。地域と学校との交流や様々な学校教育活動の取組等、全職員が協力して教育活動の推進に尽力されている感がある。しかし、近年、家庭での問題点も多く、学校とともに子どもたちの実態を把握し、保護者への啓発も含めて考えていく必要性を感じる。特に「省テレビ・省ゲーム」についての指導を今後もお願いしたい。

自己評価の妥当性
○教育課程について ・ 授業研究について熱心に取り組まれている。今後も子どもたちがわかりやすい授業をめざして取り組んでほしい。 ・ 読書の推進に力を入れていただきたい。読んだ冊数よりも本の好きな子になるような取組を進めてほしい。 ・ 主体的に活動する力が身につけてきている。また、縦割り版での活動はとても大切な取組だと考える。
○学校運営について ・ 授業参観や地域学習に対して熱心に取り組んでいる。 ・ こ小連携、小中一貫教育については、教師間連携だけでなく、園児児童生徒間交流も推進していると考ええる。 ・ 危機管理への対応が迅速であり、判断も速いと感じた。 ・ いじめの防止に向けて、学校まかせではなく、今後も地域や保護者としての役割をしっかりと考えながら、協力した関わりについて考えていきたい。
○課題教育について ・ あいさつをすることの大切さを改めて感じる。上級生を中心に人前でもちゃんとできる子とそうでない子との二極化があり、全体的にはまだまだな感じがする。 ・ 関係機関や地域との協働体制が図られ、効果的な体験学習が実施されていると考える。 ・ 一人一人の子どもに目を行き届かせ、人権教育のこと、いじめのこと、命を守ることなどについて繰り返し指導がなされ、人権意識の高揚が図られている。 ・ 子どもたちが毎日元気に登校できていることがうれしい。